

各 位

東京都新宿区西新宿六丁目 5 番 1 号

インターニックス株式会社

代表取締役社長 油井秀行
(コード番号: 2657 東証第一部)

問い合わせ先

取締役兼専務執行役員 加藤孝雄
管理本部長兼経理部長
電話 (03) 5322-1708

平成 23 年 3 月期の業績予想および配当予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、平成 22 年 5 月 13 日付で公表した、平成 23 年 3 月期（平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日）の業績予想および配当予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成 23 年 3 月期第 2 四半期（累計）連結業績予想数値の修正（平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 9 月 30 日）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
前回発表予想(A)	10,400	155	160	160	16.52
今回発表予想(B)	11,322	284	264	421	43.48
増減額(B - A)	922	129	104	261	
増減率(%)	8.9%	83.3%	65.3%	163.2%	
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 22 年 3 月期第 2 四半期)	7,393	△ 217	△ 296	△ 298	△ 30.80

平成 23 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正（平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
前回発表予想(A)	22,100	355	375	365	37.69
今回発表予想(B)	22,200	470	460	530	54.72
増減額(B - A)	100	115	85	165	
増減率(%)	0.5%	32.4%	22.7%	45.2%	
(ご参考) 前期実績 (平成 22 年 3 月期)	16,470	△ 102	△ 213	△ 28	△ 2.90

平成 23 年 3 月期第 2 四半期（累計）個別業績予想数値の修正（平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 9 月 30 日）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
前回発表予想(A)	9,800	170	175	155	16.00
今回発表予想(B)	10,687	336	334	548	56.64
増減額(B - A)	887	166	159	393	
増減率(%)	9.1%	98.0%	91.4%	253.9%	
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 22 年 3 月期第 2 四半期)	7,226	△ 217	△ 294	△ 297	△ 30.74

平成 23 年 3 月期通期個別業績予想数値の修正（平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日）

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	20,600	375	395	365	37.69
今回発表予想 (B)	20,900	540	550	670	69.18
増減額 (B - A)	300	165	155	305	
増減率 (%)	1.5%	44.0%	39.2%	83.6%	
(ご参考) 前期実績 (平成 22 年 3 月期)	15,731	△ 90	△ 196	△ 6	△ 0.65

修正の理由について

当第 2 四半期累計期間の業績予想については、半導体等市況の好調さとこれまでの諸施策とが相俟って、売上げ面では、得意分野である産業機器向け売上げが着実に回復傾向を辿るなど、幅広い用途で売上げを伸ばすことができました。利益面では、売上げが当初予想（平成 22 年 5 月 13 日付で公表、以下同じ）を上回るとともに、リーマン・ショック以降取り組んできた経営合理化策の効果もあり、各段階の利益とも、当初予想を上回ることができました。なお、四半期純利益の増益要因として、連結子会社の解散・清算の意思決定に伴い、当該連結子会社の損失の親会社持分額に係る税効果を認識し、回収可能性をふまえ、繰延税金資産を計上したことが挙げられます。

通期の業績予想については、欧米経済の下振れ懸念や円高の加速など、先行きへの不安を示す材料が多数散見され、先行き不透明感は日増しに強まっております。特に第 4 四半期以降、予断を許さないものとして、警戒感を強めておりますが、これまでの取り組みを継続強化して、期後半の業績を概ね当初予想どおりに推し進めるものとし、期前半（当第 2 四半期累計期間）の業績を反映する形で上方修正するものであります。

● 配当予想の修正について

	年間配当金				
	第 1 四半期末	第 2 四半期末	第 3 四半期末	期 末	合 計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
前回予想 (平成 22 年 5 月 13 日発表)	—	0.00	—	12.00	12.00
今回修正予想	—	—	—	14.00 (普通配当 12.00) (記念配当 2.00)	14.00 (普通配当 12.00) (記念配当 2.00)
当 期 実 績	—	0.00			
前期実績 (平成 22 年 3 月期)	—	0.00	—	12.00	12.00

修正の理由について

当期については、復活のスタートの期と位置付け、業績回復に最大限の努力を傾注してきましたが、前述のとおり、先行き不透明感は否めないものの、業績はこれまで概ね順調に推移してきました。加えて、当社は 9 月 14 日をもちまして、創立 40 周年を迎えることができました。

ついては、この業績状況をふまえつつ、創立 40 周年を無事迎えられたことは、ひとえに株主の皆様への永年にわたる温かいご支援の賜物であることに鑑み、株主の皆様へ感謝の意を表し、日頃のご支援にお報いすべく、記念配当「2 円」を実施することとして、普通配当「12 円」を加え、当期の配当予想を年間「14 円」に修正するものであります。

以上

注) 上記の予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後さまざまな要因により予想数値と異なる場合があります。